

一部構成員限り

資料54-3-1

競争ルールの検証に関するWG（第54回） 関係者ヒアリング資料

2024年3月28日
株式会社NTTドコモ

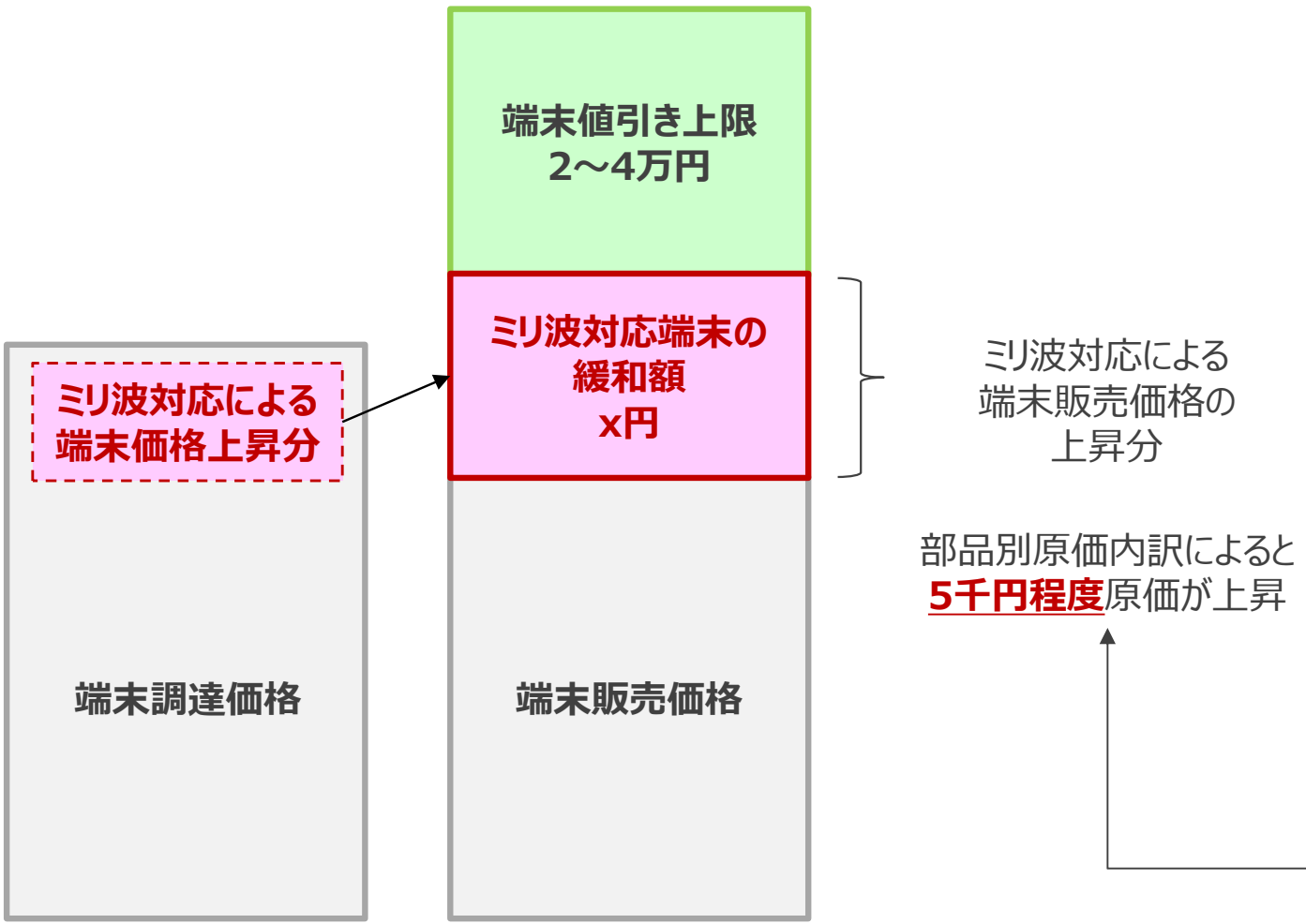
1. 各論点に対する当社の考え

- ① ミリ波対応端末について
- ② 端末下取りサービスについて
- ③ 不良在庫特例の見直しについて

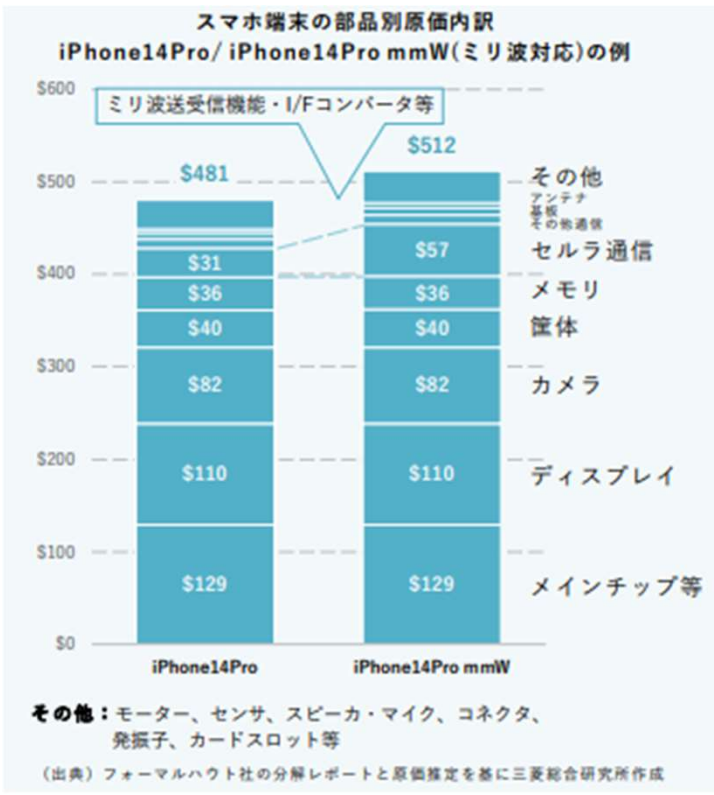
2. ヒアリング項目に対する回答

1. ミリ波対応端末の値引き上限緩和

- 仮にミリ波対応端末の普及促進のために値引き上限を緩和するとしても、その緩和額については、過度な値引き競争や転売ヤー問題を助長することにならないよう配慮すべき
- 単なる割引強化にならぬようミリ波対応による端末販売価格上昇分を勘案した緩和額とできないか



5GビジネスデザインWG報告書 (抜粋)



<例: iPhone14Pro>
 ミリ波非搭載 : \$ 481
 ミリ波搭載 : \$ 512 } 差額 : \$31
 ⇒ \$31 × 約150円 = **4,650円**

2. 郵送下取りにおけるキャンセル対応

- 従来は郵送での下取りはキャンセル対応していなかったが、2024年4月（予定）より郵送時に「良品判定でない場合はキャンセル（返却）」の選択肢を設け、キャンセル対応できるよう改善予定

端末下取り時のキャンセル対応

対応チャネル	現状	見直し後（2024年4月～）
店頭下取り	査定結果を見てキャンセル可	
郵送下取り	郵送後キャンセル不可	お客様が郵送にて端末を発送する際に「良品判定でない場合はキャンセル（返却）」を事前に選択可

3. 不良在庫端末特例の見直し

- 代理店における不良在庫を極力なくす観点から、不良在庫端末特例を見直していただきたいとの全携協殿の要望に賛同

事業法27条の3 不良在庫端末特例

製造事業者による 製造の状況	現行規律		見直し後	
	同一の機種 の最終調達日からの経過期間	利益の提供の額 の上限	同一の機種 の最終調達日からの経過期間	利益の提供の額 の上限
中止されて いないもの	24か月	対照価格の 半額まで	見直しが必要との 全携協殿の要望に賛同	
中止されたもの	12か月	対照価格の 半額まで		
	24か月	対照価格の 8割まで		

1. 各論点に対する当社の考え

- ① ミリ波対応端末について
- ② 端末下取りサービスについて
- ③ 不良在庫特例の見直しについて

2. ヒアリング項目に対する回答

#	ヒアリング項目	回答
1	ミリ波を活用し、どのようなサービスや社会を実現することが可能か。また、ミリ波のメリット・デメリットについてどのように考えているのか。また、それらについて、利用者に対して周知をしているのか	<ul style="list-style-type: none"> ミリ波を含めた5G技術は24年度以降の「更なるスループット向上」「スライシング」により最大化するものと考えます。 ミリ波を活用したサービスとして、例えば、鉄道における車両管理の映像伝送、放送におけるリアル中継や医療における高精細な映像伝送等、高速・大容量、同時多数接続の特性を活かしたサービスの創出が想定されます。
2	ミリ波の活用に関し、ミリ対応端末の普及は重要だと考えているか	<ul style="list-style-type: none"> ミリ波の活用に関しては、ミリ波対応端末の普及のみならず、こうしたユースケースの創出/実現についても必要不可欠であると考えており、両輪として取り組んでいく所存です。 ミリ波等の高周波数帯の特徴として、広い帯域幅を有することから高速・大容量通信を実現可能な一方で、直進性が強く、減衰量が大きいため、通信可能範囲が非常に狭く、障害物の影響を受けやすい（人体遮蔽等でも減衰）といった課題があるものと考えます。 また、スライシングが本格的に実装・普及する場合には、一般利用者の通信環境への影響等について、制度的なものも含めて検討が必要と考えます。 当社は、ホームページ上でミリ波の特徴や活用シーンを周知するとともに、サービスエリアマップ上でミリ波対応スポット（施設名）を公表しており、利用者にご理解いただけるよう努めております。
3	ミリ波対応端末の割引上限見直しは、ミリ波対応端末の普及に効果があると考えるか	<ul style="list-style-type: none"> 値引き上限の緩和は、ミリ波対応端末の普及に一定程度寄与するものと考えられるものの、その緩和額については、単なる割引強化にならぬようミリ波対応による端末販売価格上昇分を勘案した金額とする等、過度な値引き競争や転売ヤー問題を助長することにならないよう配慮すべきであると考えます。
4	ミリ波対応端末ユーザーのARPUが高いこと（約1.32倍）を踏まえ、ミリ波対応端末の割引上限を変更することについてどのように考えるか。また、端末別のARPUのデータはあるか	<ul style="list-style-type: none"> なお、ARPUはモバイル関連の総収入を稼働利用者数で割って算出しているため、端末別のような利用者の属性に合わせたデータの取得は困難となります。ご参考までに、端末別のユーザ請求額（1利用者当たりの基本使用料、通話料、通信料、コンテンツサービス等の月額課金の請求額合計）は、以下の通りです。 <div style="border: 2px solid red; height: 150px; width: 100%;"></div>

構成員限り

#	ヒアリング項目	回答
1	端末下取りサービスについて、郵送の場合、端末買取り額に関し利用者の認識とキャリアの査定結果に齟齬が生じたとしてもキャンセルできない運用となっているが、改善を検討する予定があるか	<ul style="list-style-type: none"> 2024年4月（予定）より郵送時に「良品判定でない場合はキャンセル（返却）」の選択肢を設け、キャンセル対応できるよう改善予定です。
2	仮に改善を検討する場合、現時点で想定される改善方法、改善スケジュール	
3	郵送での下取りの件数。そのうち、利用者が当初想定していた査定金額とキャリアの査定結果が一致していなかった件数	

構成員限り

#	ヒアリング項目	回答
1	不良在庫端末特例の見直しは必要か	<ul style="list-style-type: none"> 代理店における不良在庫を極力なくす観点から、不良在庫端末特例を見直していただきたいとの事業者ヒアリング（2023年12月22日）における全携協殿の要望に賛同します。
2	仮に見直す場合、どのように見直すことが適切と考えるか	
3	また、#2の基準に変更する場合に留意すべき点はあるか	<ul style="list-style-type: none"> 特例として踏み込んだ値引きが可能となることを見込み、意図的に予め在庫を大量に抱えるといった潜脱行為が生じないよう留意する必要があると考えます。
4	評価指標の設定を含め、端末の調達について適正化が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> お客様ニーズを踏まえ、在庫が適正となるようラインナップや調達数等の精査を実施しております。

NTT
docomo